

受験先を決めるにあたって

先日行われた第2回進路希望調査で、現時点での受験先がまだ決まっていない人が一定数いることがわかりました。それに対して、もうすでに来年度の進路先で合格通知を手に入れている人もわずかですが出てきています。学年全体で160名近くの生徒がいるので、すべて同じ動きをすることは難しいですが、受験先が決まっていない人の理由を考えてみましたので、参考にしてください。

【原因① 学習面に関すること】

今年度から、北都中学校では前期後期の2期制になりました。このため、私立高校の早い単願や推薦受験する人の成績は、**前期の成績を根拠とする**ことになります。今回の前期の成績をもとに算出された学習点がいわゆるランクとして考えてください。合格を目指して勉強頑張ると言っている人がいますが、この場合高校入試のテストの点数をとれるように頑張るということになります。

ランクを上げるために頑張っている人は、公立高校の受験を第1志望にしている人が多いと思いますが、3年生で習ったところだけでなく、得点力もアップさせていかないとライバルたちに勝てませんよね。合格するだけではなく、入学後も学年の生徒集団の中で上位に位置することができると、さらに大学入試などの進路選択のときに有利になりますよ。**高校入試は目標ではなくて単なる通過点**ですよ。

また、塾や家庭教師の先生から後期の定期テストや校外で受ける道コンなどの模試の結果を受けて決めるという人もいますが、時期的に間に合わないことも多いので気を付けてくださいね。

【原因② 欠席日数に関すること】

自分が3年間の中学校生活の中で様々な理由で欠席してしまった日数があると思いますが、実はその日数が重要視される学校があります。どちらかというと主に私立高校のほうが多いですが、高校の募集要項に欠席日数についての表記が受験資格とかいう表現で記載されていることがあります。だいたいどの学校で、3年間で30日とか、1年間で10日とか書かれているのですが、それを超えると欠席理由書という書類を出さなければならない学校もあります。

どうして私立高校が欠席日数に厳しいかというと、私立高校は国からの補助金と生徒からの授業料で経営が成り立っているからです。中学校には校区というものがあるって自宅から歩いて通学することができます。しかし高校はバスや地下鉄やJRに乗って通わなければならないので、中学校時代に欠席日数が多いと高校生になったときに通ってこられるのかという心配があるからです。

自分が受験しようと思う学校で、**自分の欠席日数が心配な人は、自分で判断せずに担任の先生や学年の先生に一度相談してみてください**。一人ひとり欠席理由は違うはずなので、個別に判断するしかありません。

【原因③ 家庭での話し合い不足】

一番心配でもあるのが、自分の希望と家族の願いが一致していなくて、方向性が違うケースです。日頃からよく会話して教育相談や期末懇談、進路懇談の際に担任の先生の前で親子喧嘩しないでくださいね。

今年度から私立高校の授業料が実質無償化になりました。従来よりも私立高校が身近に感じるようですが、授業料が安くなるだけで、入学金や設備費、教育充実費、保護者会費など様々な名目で必要なお金は、やはり公立高校よりかかることは変わりません。高い入学金を支払ってすぐにやめてしまったり、その後に通信制などの専門学校に通うことになるとしても、その学費は結構高いのでよく考えて、家での会話を十分にした上で進路希望を決めてください。

11月4日(水) 進路説明会があります。ぜひお越しください。